



コーヒーブレイク

「東川のナンバーワン」

イラスト・山本英津子

全国どこの市町村にも、胸を張って自慢できるものが必ずある。だから「東川らしさ」を意識して独自のまちづくりを進めている東川町にも、自然環境はもとより、文化、教育、特産品、名所や町の各種制度まで、誇るべきものがたくさんあるはずだ。

そんなことを考えて探してみたら、出てくる出てくる東川のナンバーワン。「北海道初」や「日本でただ一つ」、はては「世界最高」（ただし自称）まで見つかった。

町史の本編よりはいくぶん敷居を低くして、東川にまつわる出来事やものごとを解説するコーヒーブレイクのコーナー。「大雪山と旭岳」（P40～P41）に続く第2弾は、多少の自画自賛も込めながら「東川のナンバーワン」あれこれを紹介する。

日本一

日本最大（一部だけど）

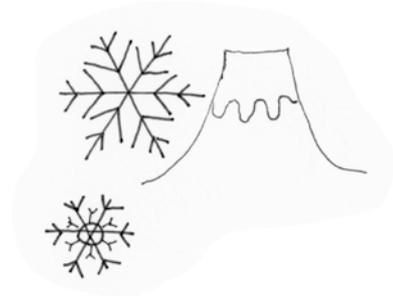
大雪山国立公園は東川町を含む10市町村にまたがり、2267.64平方kmという面積は陸の国立公園では日本最大。日本初の国立公園は1934年（昭和9年）3月に指定された瀬戸内海、雲仙（現在は雲仙天草）、霧島（現在は霧島屋久）の3公園だが、大雪山はわずかに遅れて同年12月、日光、阿寒（現在は阿寒摩周）などと同時に指定された。阿寒摩周と並び北海道の国立公園第1号でもある。



ライバルは富士山？

大雪山の主峰旭岳（2,291m）は北海道で最も高い山。東川のシンボルでもある。これだけなら全日本クラスとはいえないが、旭岳が日本最高峰の富士山（3,776m）と競っているナンバーワンがある。初冠雪の観測日だ。

2000年（平成12年）～19年（令和元年）の観測データ20年分を見ると、初冠雪が最も早かったのは08年（平成20年）、それもなんと8月9日で、これは富士山で記録した。しかし全国で最も早く初冠雪を観測した回数になると、富士山が08年を含む3回だったのに対し、旭岳は14回で圧倒している。例年旭岳は9月中旬から下旬に、富士山は9月下旬から10月上旬に初冠雪することが多い。旭岳や富士山以外では利尻山なども初冠雪が早い。



文中イラスト・かよばん

スキー天国

早く雪が降るということは、長くスキーやスノーボードを楽しめるということだ。

旭岳ロープウェイを降りてすぐの旭岳スキーコースは例年12月から翌年5月上旬までオープンしている。

旭岳クロスカントリーコースに至っては、その年の降雪状況にもよるが11月から翌年5月まで滑ることができる。天然雪のスキー場、クロスカントリーコースとしては、国内で最も長く楽しめる施設の一つとみられる。

実は、旭岳のスキーに関しては「世界最高」のナンバーワンもあるが、それはもう少し後のページで一。

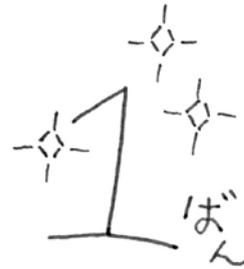


森林限界を超えて

まだある旭岳のナンバーワン。日本で唯一、森林限界を超えて運行しているのが大雪山旭岳ロープウェイだ。

標高約1,100m付近の山麓駅を出発。うっそうと茂っていた針葉樹林が1,400m地点から徐々に低木へと植生が変化する様子を見ながら、約1,600mの姿見駅に至る。

ちなみに東川町ではなく上川町になるが、同じ大雪山系の黒岳（1,984m）でも大雪山層雲峡・黒岳ロープウェイが運行されている。こちらはロープウェイを降りてリフトに乗れば、森林限界を超える形になる。



言ったもん勝ち?

これまではある程度厳密なナンバーワンを紹介したが、数字の裏付けがなくてもいいことにすれば、まだまだ日本一がある。

例えば、9月上旬から始まる紅葉はよく「日本一早い紅葉」とテレビなどで紹介される。また、広大な山腹に30種類以上の高山植物が開花する夏場は「国内最大級のお花畑」と報じられることも多い。

旭岳温泉のサクラ（チシマザクラ）は開花が6月中旬ごろと遅く、かつては温泉街で「日本一遅い花見会」が開かれていた。

いずれも本当に日本一かどうかは微妙だし「言ったもん勝ち」という面もあるが、日本一だと信じさせるだけの何かが旭岳にはある、ということにしておこう。



1番ではないけれど

自然環境にまつわるナンバーワンが続いたついでに、全国14位だけれど興味深い記録も紹介する。マイナス17.4度という数字。何かといえば最高気温の記録だ。

1985年（昭和60年）1月25日、東川は最低気温が氷点下28.2度（東川の観測史上2位）までしぼれ、日中も気温が氷点下17.4度までしか上がらなかった。これが、最高気温が低い観測値の記録で全国14位に位置している。

実はこの記録、2位から10位までは名寄、士別、富良野などすべて北海道、それも上川地方で観測された。

2位は旭川で、1909年（明治42年）1月12日の最高気温で氷点下22.5度だった。

1位は1936年（昭和11年）1月31日に富士山で記録した氷点下32.0度、2位の旭川より約10度も低い断トツの記録だ。この日の富士山頂は最低気温が氷点下35.3度で、日中もほぼそのまま推移した。

富士山頂では2004年（平成16年）まで有人による気象観測が行われていた。往時の苦勞がしのばれる。



「早い」で日本一

東川のナンバーワンで多いのは、よそより早く取り組んだ事例のあれこれだ。「大雪旭岳源水」は東川町が誇る地下水のブランド名。2013年（平成25年）4月5日、商標法に基づく地域団体商標に登録された。飲料水の地域ブランドとしては全国初だった。

また東神楽、美瑛両町と介護保険事務などを広域運営する大雪地区広域連合は2004年（平成16年）4月から国民健康保険事業の広域化も実施し、国保の保険料を3町で統一した。これも全国初のことで、関係者の間で話題になった。



国際交流でも

国際交流が盛んな東川町。この分野でも日本一がある。2015年（平成27年）10月、町立日本語学校が開校した。公立の日本語学校は全国初だった。

また町は台湾、タイ、韓国、中国、ベトナムの5つの国や地域（2019年時点）で自前の海外事務所を運営する。これだけの海外事務所があるのは市町村レベルでは全国に例がない。政令市など大都市を含めても異例の規模だ。



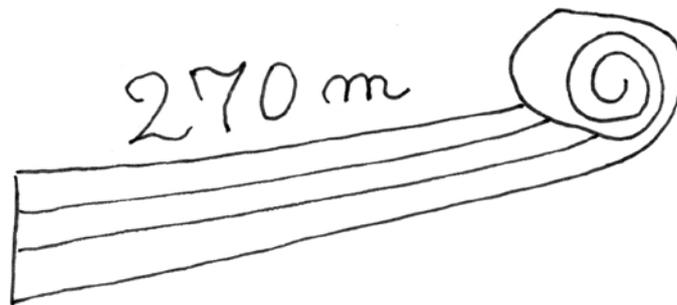
全国初で知名度アップ

2010年（平成22年）6月1日、当時の民主党政権下で子ども手当の支給が始まった際、制度新設に伴う事務作業の煩雑さなどから他市町村が支給開始日を2日以降に遅らせる中、東川町は「対象者に早く手当をを支給したい」と庁内の事務作業を急ぎ、なんとか初日から支給した。結果、初日に支給開始したのは全国で東川町を含む7町村だけ。当時は話題になっていた新政策の初日とあって新聞やテレビの取材が東川にも集まり、全国、全道ニュースで東川の名前を売り込む副次効果もあった。



記録か反則か

変わったところでは、東川小学校の廊下の長さが日本一かもしれない。珍記録あれこれを集めたテレビ番組で長い廊下の学校が紹介されたのをきっかけに、ネット上でも長さ自慢の投稿を散見するが、長い学校でもせいぜい200mほど。これに対して東川小は併設の地域交流センターまで、一直線の廊下が270mも続く。学校の廊下の長さをまとめた全国統計はさすがに見当たらず、それこそ「言ったもん勝ち」で日本一を自称してよさそうな半面、併設施設の分まで加えるのは「反則だ」などと誰かに突っ込まれそうな気がしないでもない。



北海道一

いずれ劣らぬ

天人峡にある羽衣の滝は落差が約270mもある。滝の落差は雪解け時期など季節によって変わったりするため比較は難しいが、「北海道最大の落差」といわれる。270mという落差は全国的にも、約350mの称名滝（富山県）や、称名滝の隣に雪解け時期だけ現れる約500mのハンノキ滝に次ぐとされる。天人峡にもう一つある敷島の滝は落差ではなく50mもある幅から流れ落ちる豊富な水量で知られ、かつては「東洋のナイアガラ」といわれた。実際に東洋一かどうかは定かでないが、天人峡の2つの滝はいずれ劣らぬ名瀑として愛されている。



あの旭岳が…

全国レベルでナンバーワンが多数あった旭岳。全道レベルでもさぞや、と思ったら実は意外と見つからない。標高が北海道最高であることくらいだ。その標高も、富士山の3,776mを筆頭に数メートル、時には数十センチ単位で高い山がしのぎを削る全国レベルでは、あまりたいしたことはない。旭岳の標高2,291mは、全国なら上位200位にも入らない水準だ。



住宅地の全道一

大雪山系の山々や田園風景の中、ゆったりと広い敷地で人気を集める東川町の住宅地。遊休農地の宅地転用を可能にする、優良田園住宅の造成が東川町で認定されたのは2000年（平成12年）7月。全道第1号の認定だった。また2005年（平成17年）3月、東川町は道内で初の景観行政団体に指定された。指定後は「東川風住宅」の建築が促され、景観に配慮したおしゃれな住宅や店舗が増える一因になった。



「早い」で全道一

2002年（平成14年）4月、それまで町が運営していた特別養護老人ホーム「羽衣園」が実質民営化された。特養ホームの運営を外部に委託する例は各地にあったが、民営化は道内初だった。03年（平成15年）11月には、幼児センター「ももんがの家」が幼保一元化特区の認定を受けた。これも道内初で、全国的にもかなり早い事例として注目された。また全国初の分野で「大雪旭岳源水」を紹介したが、東川町農協のブランド米「東川米」も12年（平成24年）5月、北海道のコメとしては初めて地域団体商標に登録された。



世界一（ただし自称）

インスタ映え

東川町が写真の町を宣言したのは1985年（昭和60年）。条例の形で明文化して、写真映りのよい町を目指してきた。ところでこの「写真映り」という言葉。はやりの言葉に言い換えれば「インスタ映え」になるのではないだろうか。この言葉が新語・流行語大賞に選ばれたのは2017年（平成29年）で、そもそもインスタグラムという写真共有サービスが世に出たのは2010年（平成22年）。それよりはるか以前から東川町は「インスタ映え」する町を、町自身も自覚しないまま進めてきたわけだ。

同じような取り組みを東川より早くから続けている町が世界のどこかにあつたら謝るしかないが、「世界で最も早くインスタ映えを実践してきた自治体」と宣言してみたら、案外受けるかも。



パウダースノー

客観的なデータで証明するのは難しいけど、最後にすごい世界一を。2010年代に入ったころから、ニセコがけん引する形で北海道のパウダースノーが評価され、世界中からスキーヤーが集まるようになってきた。そこで声を大にして言いたいのは、集客力はともかく、雪質は旭岳など大雪山系が最高であることだ。

大雪山系はニセコなどより標高があるうえ、冬は北西の乾いた風が山腹に吹きつけるため、極めて軽い雪が大量に積もる。現に世界の「ベストパウダースポット」を紹介するインターネットのサイトでは、スノーボードのトッププロが「俺が一番気に入っているパウダーは北海道の旭岳だ」などと絶賛する。

まあ、同じサイトで別のプロがウイスラー（カナダ）などを「サイコー」としているのは内緒だが、旭岳のパウダースノーに「世界最高級」の称号を冠するくらいなら、誰からも異論は出ないと思う。スキーやスノーボードをしない人にはピンとこないかもしれないが、世界のスキーヤーあこがれの「聖地」が、わが町にある旭岳だということは特筆しておきたい。

